旧幾寅駅 廃線後も華やかに

南富良野　まちづくり観光協ら花植え

旧幾寅駅周辺で丁寧に花を植える参加者たち

【南富良野】今春のJR根室線富良野―新得間の廃止に伴い廃駅となった旧幾寅駅周辺の花壇で、恒例の花植えが行われた。主催する南富良野まちづくり観光協会が今年は広く参加者を募り、計約30人が汗を流した。

同駅は、故高倉健さん主演の映画「鉄道員」のロケ地としても知られる。廃線後も町が駅舎の保存を決め、今なお多くの観光客が訪れている。

15日に行われた花植えには、幾寅婦人会の会員や観光協会の職員、南富良野高の生徒、教員らが参加。30分ほどかけ、同協会が提供したマリーゴールドやサルビア、ホウセンカなど計約350株を植え、水やりもした。

幾寅婦人会の後藤治子会長(74)は「多くの人たちの協力もあり、いい環境で花植えをすることができた」と笑顔。南富良野高1年でボランティア同好会のメンバーという蓬田唯珠（ゆず）さん(15)＝町内在住＝は「バランス良く植えるのが難しかった。（自宅の）家庭菜園にスペースがあったら花を植えてみたい」と語った。

（千葉佳奈）

©北海道新聞社